

### コアシンポジウム 3

#### 「炎症性消化管疾患の最前線【IBD 治療と外科・内科のコラボレーション】」

主司会 松本 主之（岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野）

副司会 池内 浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）

炎症性腸疾患の治療薬の進歩は著しい。潰瘍性大腸炎 (UC) では手術率の低下、クローン病 (CD) では再手術率の低下が報告されている。ただ、UC 領域では高齢発症症例を中心に、治療効果の判定と手術の見極めが重要であることが指摘されている。また、CD 領域では医療経済も考慮し、内科的治療を継続するのか、それとも手術でリセットして、その後の内科的治療により、再手術を避けることに重点を置くのかは重要な問題である。本セッションでは内科医と外科医が本音で討論していただきたい。